明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter
YouTube

KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.211
2023
4.28

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

こんな学校づくりが
北海道安平（あびら）町立早来（はやき）学園

Facebook で安平町立早来学園の YouTube 動画が紹介されていました。早速どんな学校なのか動画を覗いてみました。https://www.youtube.com/watch?v=myyAzfvO1dU

この施設は ICT 空間設計という初めて耳にする考え方でつくられた施設だそうです。この施設をたてるにあたり、学校を、地域住民にも開かれた場所にし、地域と学校が一体となる空間を目指され、そのために ICT 空間設計を活用されたようです。例えば、校内の「家庭科室」「美術室」「音楽室」などの教室は、授業で利用していない時間帯、地域住民が Web サイトから自由に予約して利用することができ、「キッチン」「アトリエ」「スタジオ」として、地域のコミュニティセンターの機能を果たすそうです。図書室は児童・生徒だけでなく地域の方々みんなが楽しめる「みんなの図書室」として多世代が集う場となっているようです。また、これらのシェアできる教室は、児童・生徒、地域住民のどちらからも教室内の様子が見える空間設計になっており、活動している様子がわかるだけでなく、校内や役場など人の集まる場所に設置された案内表示のモニターには、教室の予約内容が表示されるため、お互いの活動を知ることができるようになっているようです。

では、どうして、こうしたオープンな学校づくりを目指されたのでしょうか。安平町のホームページの早来義務教育学校特設ページには次のようなイメージ図があがっています。

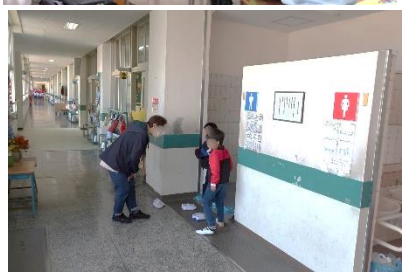
安平町の「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、支え、支えられる中で、学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」や「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会いさらに「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」とも出会い、“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

つまり、私たち大人は、こんな学校にしたいと思っています。
安平町（あびらちょう）に大自然があることを当たり前に思わず、大切に感じてほしい。
安平町に住む地域の方々の力をお借りして、自分の住む町をよく知ってほしい。
学校生活を通じて、色々な年齢の方と出会い、自分と違う考え方に出会ってほしい。
これらを通じて、児童・生徒のみなさんだけでなく、地域の方々の学べる場所になってほしい。

安平町の学校づくりのコンセプトはこれからの時代、特別なものではなく、「社会に開かれた教育課程」につながるものだと考えます。子どもたちの成長にとって、たくさんの人との関りが必要であり、大人のあり方が大きな影響を与えるという考え方がベースにあるんだと感じます。

今年も始まっています　1年生学校生活サポート

小学校の入学式から1週間がすぎ、1年生の給食も始まっています。そんな1年生が学校生活にスムーズにはいっていけるよう、松が丘小学校、朝霧小学校では地域の方のサポートが始まっています。そんなサポートの様子を見に行ってきました。両校とも10名を超えるボランティアの方が、スケジュールを組んで、教室に入り子どもたちのサポートに当たっておられます。集中が続かなくなった子どものそばにより、優しく声掛けされる姿をみると、人とのかかわりの中で成長するカリキュラムが始まっているんだなと思います。



また、両校ともボランティアさん用の名札が用意され、朝霧小はボランティアさんへの連絡メモ等を名札に挟むなどの連絡等にもれがないよう工夫がされており、ボランティアさんにとっても助かるだろうなと感じました。朝霧小では子どもたちと関わることにハマってしまい、生きがいとなっておられるという話を校長先生から聞かせていただき、子どものサポートだけでなく、生きがいと感じていただけるような活動が広がり、学校に足を運んでいただける機会が増えていけばいいなと感じました。

松が丘小では、これまで毎年サポートに入っておられた方のお顔がみられず、さみしく感じました。しかし、松が丘小で1年生の入学当初のサポートが始まって10年以上がすぎ、新たなボランティアさんにバトンがわたり、この活動が新たなステージにはいったことに、地域とのつながりのありがたさを感じました。松が丘や朝霧に新たに異動してこられた先生は、戸惑いを感じられると思いますが、一年もたつと地域の方と一緒に活動するのが自然に感じられるのもこの活動の積み重ねの歴史ではと思います。

松が丘小では、コミュニティ・スクールに取組む前から、この入学直後の1年生のサポートと年間25回の「松っこ教室」は行われていました。その頃はまだ、教育課程とのつながり等は考えられることは無かったと思います。それがコミュニティ・スクールに取組始め、「ありがとうという存在からありがとうといわれる存在に」という　“松が丘成長のストーリー”が考えられはじてからは、地域の方との出会いとして、これらの活動が、教師にとって“ありがたい”活動から、地域全体で子どもを育むためには、“欠かせない活動”として価値づけがされたのではと思います。先日2年生になったばかりの子が、「今日1年の教室に〇〇さん、おるかな」と話ながら登校していく姿を見ながら、2年生の子は、1年生が登校する姿をみながら、お世話になった地域の方のことを思い出したのかなと思いました。こうした“見えないカリキュラム”が大切なんだろうなと感じました。

（文責：北本）